

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケアに対する理念、「ゆったり」「楽しく」「一緒に」を作り上げてきているが、地域密着に対する理念は組み込まれていない。	○	ケアに対する理念に加え地域密着型サービスとしての理念も作り上げていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ゆったり」「楽しく」「一緒に」を意識しながら業務遂行が出来ている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	憩のもりの理念を面会時の家族との交流で伝えることができています。	○	運営推進会議を通し、地域の人々にも更に憩のもりの理念を浸透させていく。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	民家が隣接していないため、立地条件に問題もあるが、自動車、自転車での訪問は時々あり。	○	立地条件の不利もあるが、日常の交流が深まるような地域との付き合いを考えていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々を招いての「もちつき」や育成会を通しての子供たちとの交流ができています。また「どんどやき」への参加など地域行事への外出も試みた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	特に実施していない。	○	共用型通所介護の開始を検討する。地域の認知症高齢者の通いの場が提供できるようにしていく。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	良質なサービス水準の確保を目的としていることは理解している。	○	更に①入居者及び家族の安心と満足を図ること②ケアサービスの水準を一定以上に維持すること③改善点を明確にし、改善に向けた関係者の自発的努力と体制づくりを促すこと。④継続的に評価を行うことで、関係者による自発的な研修等によるケアの向上促す教育的効果を狙うこと。⑤事業所に対する社会的信頼を高めること。これらを念頭に置き業務遂行していく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議を通し地域の人々との交流や行事の企画を中心に話し合っている。	○	利用者の現状報告や、日常のケア業務の実際も運営推進会議で報告していく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	ケアプランの在り方、共用型通所介護の運営や医療連携加算についての指導を受けている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	入所者の必要性に応じて、社会福祉協議会権利擁護事業の職員と連携をとっている。	○	地域権利擁護事業や成年後見制度について職員一同、学習の機会をつくっていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	憩のもり内では、入居者一人一人を尊重し尊厳のあるケアを心がけている。	○	高齢者虐待防止関連法についての学習の機会をつくっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、料金の内訳を文書で示し、料金設定理由を十分に説明している。(食費、光熱費、その他の実費、等)	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその理由の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○ 人事異動で担当職員が変わったため、今までどおりの相談窓口が確保できるよう努力していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に入居者の近況報告を行えている。人事異動の時は文書にて報告した。	○ 人事異動による家族の不安を軽減するためにも、入居者の報告を通し、家族からの信頼をこれからも得られるよう努力していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できていない。	○ 家族等が不満や苦情を申し立てられる具体的方法を職員一同で考えていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム内の会議を実施している。またこれとは別に月1回の法人全体の運営会議に管理者が出席している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等人員の確保を要する時は臨機応変に勤務調整をしている。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今年度法人内の人事異動に際し、家族には文書により報告した。また入所者に対しては混乱がおこらないよう細心をはらいケアにあたっている。</p>	○	<p>現状として、入居者に大きな混乱はないので、今後も変わらないケアの提供に努める。また、家族の不安に対しては入居者の現状を伝えていくことで信頼を得ていけるよう努力する。</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は入職の順に、認知症の実践者研修を受けている。また法人内の研修にも参加している。</p>	○	<p>働きながらトレーニングしていく方法を具体化しホーム内独自の勉強会も行っていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の事業者連絡協議会やケアマネージャー協会に所属参加をしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内の慰安旅行をはじめ、各種、職員のための余暇活動あり。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>実績や資格要件を把握し、各職員の能力が最大限に発揮できるよう努力しているとおもわれる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに相談員や職員が本人と面接し、情報を収集している。	○	更に本人の意向をくみ取れるような情報収集を行い、本人の今までの生い立ちも把握でき、入居後のケアに生かしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前はホーム内の見学をはじめ、認知症に関わる様々な相談に応じている。		
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと支援について、特に意識して関わりはもっていない。	○	今後は居宅のケアマネージャーや医療の専門機関等を含めた総合的なマネジメントの元に、相談援助ができるように努力する。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に行っていない。	○	共用型通所サービスをはじめ、入居希望者の要望に沿って、納得した上でサービスが提供できるように努力していく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケアを「してもらった」「してあげた」ではなく、入居者と共に生活している事を意識し、日々過ごしている。また職員は入居者から生活の知識などを引き出そうとかかわりを持っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	特に意識して行っていない。	○	運営推進会議の設立を機に、家族と共に本人を支え続けられるような体制作りと、家族との信頼関係が築けるよう努力していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム内の行事に家族も参加していただき、本人と交流の場を作るなど工夫している。	○	これまでの本人・家族関係について、入居前の面接や、日常の面会の中で把握し、日々のケアにそれが生かせるように努力していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等の面会時には穏やかに過ごせるように、環境や雰囲気配慮している。次の来訪に繋がるような時間が過ごせるよう配慮している。	○	本人の出生地など馴染みの場所へドライブへ出かけることあり。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症のレベルによって、区別することなく、入居者同士のふれあいを見守っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用契約が終了した家族に運営推進会議に参加いただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の様々な場面で本人の自己決定を常に尊重するよう努めている。	○	更に本人の希望や意向の把握を職員側から、積極的にかかわり実現可能なことを見つけ出していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接等で把握できている。	○	入居後も家族や関係者から、本人の生活等を徴収し、本人の全体像を把握することで、より良いケアの提供をしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の1日の過ごし方、心身の状態を踏まえて、自立支援を目的としたケアを提供している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3～6ヶ月の間隔でケアプランの見直しを全職員で行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特にしていない。	○	入居者の心身に変化が生じた場合は、随時、介護計画の見直しを行い、月に1度のモニタリング（振り返り）を通し常に介護計画に流動性をもてるように努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日(24時間)を通し、時間毎にケアの実践、結果を記録している。	○	気づきや介護の工夫など職員の分析等も記録でき、今後の介護に役に立つ記録が出来るよう検討していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診などで、家族が同行できない時はホーム職員が同行し受診している。	○	共用型通所介護(定員3名)を開所して、通所機能も充実できればと考えている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム内行事(もちつき等)必要に応じ、民生員、地域住民に協力をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特になし	○	リハビリや活動量の確保が必要な入居者は、同法人内のデイケアとデイサービスの利用を考えている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特になし	○	入居者の必要性に応じ、運営推進会議を通して対応していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	更にその入居者の具体的な方針を関わりのある職員、医師、家族と話し合いが出来るようにする。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	更に出来る範囲の医療行為を明確にし、臨機応変に対応していきたい。終末期には入居者が苦しまないための緩和ケアに留意していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ほとんどが、病院への入院となるが、その時は本人の情報を出来る限り伝達できるよう努力している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所者個人の性格等を把握し、敬意をもって接するようにしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「どうしましょうか？」など日々の声掛けの中で、入居者に選択肢を与えるようなかわりを心掛けている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にするために、見守り中心の介護に努めている。	○	更に本人の希望や意向を聞き出すことで、日々の生活がより充実するように支援していきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の着たい服を一緒に選んだり外出時は化粧などの支援をしている。	○	認知症が進行してもみだしなみの支援を忘れずに清潔感のある整容に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	今後も利用者の要望に、その都度丁寧に対応していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○	曜日や時間に関わらず、臨機応変に対応していく努力をしていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣い程度の金銭を管理している利用者もいる。金銭管理のできない利用者も買い物などの場面で金銭のやりとりが出来るように支援している。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩にでたり、場合により車でドライブに出かける。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>花火大会や初詣など季節にあわせた外出イベントを実施している。またたけのこ堀の体験の時は家族にも参加していただいた。</p>	
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望によって家族の都合時間を考えて電話をかける。</p>	<p>○</p> <p>家族が電話かけてもいい時間と家族と連絡を取り迷惑かけないようにしていきたい。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>共用スペース（畳）を利用し、お茶などを飲んで頂きくつろいでいただく。</p>	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は行っていないが、拘束の具体的項目については、漠然と理解しているだけである。</p>	<p>○</p> <p>勉強会を通し、職員一人一人が理解し、今後も身体拘束をしない介護を実践していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	緊急時の対応をマニュアル化し、職員が共通確認しをもって対応できるように考えている。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	マニュアルを元に初期対応の訓練等を定期的に行えるようにする。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	更に災害時の具体的避難方法を含め、訓練なども実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	病態、病状によるリスクについての説明しているが、生活全般についてのリスク説明はあまりされていない。	○	転倒や行方不明など、生活全般におけるリスクを家族等と話し合っていきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック。ナース、医師に相談		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	完全には、把握していない	○	勉強会を通し、知識をつけていく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給。野菜果物を多く摂取する。散歩に行く。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、義歯の消毒を支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴に脳梗塞や脱水があったり、熱発時、入浴後、気温が高い日の水分補給に気をつけている。食べやすいように、ミキサーにかける。おもゆを作る。場合により栄養士と相談。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	冬季中、下痢便処理後に、ピューラックス消毒液で消毒行う。10月にインフルエンザ予防接種（利用者・職員全員行う）	○	外出した際は手洗い・うがいをやっている。下痢症状があった場合、検便に出している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した食器、調理器具その度洗っている。賞味期限切れのないよう努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内に生け花や季節の草花を飾っている。毎日玄関掃除をこころがけている。	○	下駄箱のスペースがあまりない。日中玄関の電気をつけていない。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下などに季節の草花を飾っている。トイレには芳香剤を設置している。		季節により、浴室の排水溝の臭気が気になることあり。修理の必要性があれば、経営者側と相談していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で会話している時は、あえて職員は介入しない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前使用していた家具やテレビ等を自室に持ち込んでいただいている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>常に換気には配慮している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーで、浴槽、トイレには手すりをつけている。車椅子使用の入居者も出来る限り自立した生活が送れるよう配慮している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>見守りの介護を基本とし、混乱や失敗の可能性がある場合はさりげなくフォローできている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>小動物を飼ったり、畑で農作物をつくり入居者と収穫を楽しんでいる。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい○ ③利用者の1/3くらい○ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある○ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが○ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと○ ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに○ ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事作りに力を入れています。朝、昼、夕と自炊をし、スタッフと入居者とが協力をして調理、盛り付け等を行なっています。また、手作りの美味しい食事を更に美味しくいただくために、口腔内の清潔に留意し、入れ歯の洗浄や歯磨きにも力を入れています。日常生活の援助に加え年間行事にも力を入れています。1月→初詣、保育園児との交流。2月→節分、豆まき、しもつかれ作り。3月→ひな祭り、ぼた餅作り（お彼岸）。4月→お花見、ピクニック。5月→竹の子掘り、柏餅作り、ピクニック、ドライブ。6月→ドライブ、外食。7月→七夕飾り、流しそうめん会（ご家族、地域の方と合同）。8月→ぼた餅作り、花火大会、夏祭り。9月→いけばな合同花展、あかね祭りへの参加。10月→月見団子作り、運動会。11月→秋の旅行、芋煮会、りんご狩り、紅葉狩り。12月→クリスマス会、もちつき会、おせち作り。それぞれの季節に応じて、楽しんで頂いています。そして、入居者の方を一番最初に考えての介護を心がけ、私達スタッフとの信頼関係が築けるように日々努力しています。